

# 農繁期 レポート

令和6年 7月号

## ニールファーム

オーナー	株式会社 新流
産 地	三重県伊賀地区
水田面積	9.0アール
保 証 量	玄米252kg
形態品種	無農薬栽培コシヒカリ



### 生 産 者 (株)ツーライフ農園:北出 茂樹さん

今年は畦草の伸びが異常なぐらい早く、草刈りが追いついていません。辛うじて、7月15日から17日に穂肥えを散布できました。トラクターに付ける除草機「楽とーる」による初期除草もうまくいったこともあり順調に育っています。渇水の情報が各地で聞かれますが、幸い伊賀地域では水が例年になく豊富でその点は安堵しております。

### 7月の作業内容

#### 1. 中干し (なかばし)

田の水を抜いて生長を強制的に止めることを中干しといいます。土中に溜まったガスを抜いて新鮮な空気を入れ、根を地中にめぐらし健全に育てる目的と土が固めることで倒伏予防やコンパインが走りやすくなる効果もあります。



#### 2. 間断灌水 (かんだんかんすい)

中干し後の幼穂形成期迄は3〜4日掛けて水を入れ、2〜3日掛けて水を抜く作業を繰り返します。土壌中に酸素を供給し根の発育を促進させるためと、穂を大きくさせる為に大量の水が必要で水は切らさないよう管理します。



#### 3. 肥料散布 (穂肥ほごえ)

穂を发育させるための追肥。肥料の散布は基本的2回で1回目はモミの数の増やし、2回目はモミを大きくします。穂肥の量が少なければ刈取り収量が減り、多ければ窒素が残り食味を落すため施肥量の決定が難しい肥料です。



#### 4. 電気柵の設置

年々鳥獣被害が増えてきています。電気柵の設置も早めに行うようになりました。出てくる動物の大きさに合わせて高さが変わります。鹿がでる地域は低いと飛び越えてくるので高さが必要です。

